

気づいたのである。私が日本の大学院生に出くわした時、彼らは、誰それ教授の学生であるとして自己紹介をするのである。あるセッションで大学院生がプレゼンテーションの後にいくつかの難しい質問に行き詰った時、彼の教授は立ち上がり、彼に代わって回答したのである。これはまさしくよき指導の実践である。

私の見たところ、この良き指導振りの関係は共同関係に発展していつている。フォーラムではまた幾人かの教授の元学生であった教授も参加しており、彼らの中には尊敬と交流がなお存在していた。日本の教授たちの世界は、強い確立したネットワークと共に、素晴らしく、緊密に結びついた社会なのである。

日本人の報告論文は抽象的で、哲学的な思考を強めるというよりも問題への解決策を探るような、実践的で実務的である。特に日本の各地から参加した日本人の報告者による報告論文の多くは素晴らしいものであった。アジア太平洋管理会計学会と共同して刊行されているアジア太平洋管理会計誌（APMAJ）は国際的な査読付きの雑誌であり、これらの論文の多くがこの雑誌の査読を受けえるであろうと私は確信している。第6回アジア太平洋管理会計学会フォーラムは2010年に台湾で開催される予定である。有難う御座いました。

（ウー・スウ・フイ（Wee Shu Hui）アジア太平洋管理会計誌のアドミニストレーターである。）

第5回アジア太平洋管理会計学会印象記

ヤン・アルペンベルグ

別府におけるアジア太平洋管理会計学会の会議は研究者としての私には、真に価値があり、有益であった。まず、様々なアジアの大学から参加した教授たちと多くの素晴らしい交流をなすことができた。第2に、会議で報告された研究は一般的に非常に高い水準にあり、私は特に（今回におけるように）報告者たちの様々な方法論の結合、また研究者間で励ましあう雰囲気が好きである。第3に、西村教授の指導の下での会議の組織的な委員会は、すべてのものに行き届いた世話を、そしてすべて会議の事柄が順調に進行していると感じさせたのである。第4に、会議後のダイハツへの工場見学は多くの知見を与え、全体の会議に価値を付け加えた。私は、来年台湾で開催される会議を待ち望んでいるし、そこで皆さんと会えることを楽しみにしている。

（Jam Alpenberg ; Växjö University, Sweden）

『農業経営』と地域連携の構築

中川隆

2010年5月7日、『農業経営』の受講生約30名を連れて、日田天領水の里とサッポロビール九州日田工場を訪れました（写真1）。今回の学外研修は、昨年設立されたばかりの大型農産物直売所の経営の実態と課題、ビール工場の実態と地域活性化の取り組みについて、現場から学ぶ目的で、実施しました。学生の皆さんにとっては、直売所に併設されたレストランでの昼食がとりわけ好評だったようですが、研修終了後には、しっかりレポートを書いてもらいました。「直売所のエコ活動が印象的だった」とか「日本のビール工場の生産工程のあり方は、中国帰国後に大変参考になる」とか、なかなか読み応えのあるレポートが多く、学外研修の大切さをあらためて感じたものでした。

また、5月28日には、公開授業を実施しました（写真2）。講師としてお招きしたのは、「さむらい」店長の清松庄之介氏です。別府大学の学生や教職員が最もお世話になっている居酒屋の店長に、『食と農』のテーマを中心に御講演をお願いしました。食農問題だけでなく、語学に関すること、学生へのアドバイスなど、実に幅広いお話を頂きました。学生の皆さんにとって、刺激的な90分間だったのではないかと思っています。

今後とも、別府大学国際経営学部では、講義を通じて、あるときは現場を訪れることで、あるときは現場の担当者を招くことで、大分県内あるいは別府市内の地域との連携の構築・深化に積極的に努めていきたいと思っています。

（別府大学国際経営学部 中川隆）



写真1
サッポロビール九州日田工場を見学
(2010年5月)



写真2
公開授業を実施
(2010年5月)